

報道関係者各位

2024年2月27日

BHQ株式会社

内閣府主催の第6回日本オープンイノベーション大賞において 「選考委員会特別賞」を受賞

BHQ株式会社は、内閣府が主催する「第6回日本オープンイノベーション大賞」において、一般社団法人ブレインインパクト、神戸大学との「日本発の脳健康産業の創出に向けた“BHQ Actions～楽しく無理なく脳を健康にするための18の行動指針～”の社会実装」の取り組みが「選考委員会特別賞」を受賞しました。



写真.左から富田特命教授、岡本副社長、山川理事長、各務選考委員会主査

日本オープンイノベーション大賞は、産官学が組織の壁を越えてイノベーション創出に挑戦するプロジェクトにおいて、今後のロールモデルとして期待される先導性や独創性の高い取り組みを政府が表彰するものです。本表彰は、イノベーション創出を巡る競争が国際的に激化する中、日本のオープンイノベーションのさらなる推進をめざして平成30年度にスタートしました。研究開発等の成果を迅速に社会実装し、社会課題の解決や新たな価値の創造につなげることが重要な課題となる中で注目されています。

このたび受賞した取り組みは、メンタルケア、認知症という社会課題に対して、国際標準に承認された脳の健康指標 BHQ に基づき行動指針「BHQ Actions」をまとめ、様々なステークホルダーが連携できるオープンイノベーションプラットフォーム、ハブ機能を実現したものです。異分野の研究および民間企業、自治体と様々なステークホルダーが連携している点が高く評価されました。

選考委員会特別賞

日本発の脳健康産業の創出に向けた「BHQ Actions～楽しく無理なく脳を健康にするための18の行動指針～」の社会実装



山川 義徳((一社)ブレインインパクト 理事長/京都大学 特命教授/神戸大学 客員教授/東京工業大学 特定教授)、川森 雅仁(BHQ(株) 代表取締役社長/慶応大学 SFC研究所 上席所員)、岡本 摩耶(BHQ(株) 取締役副社長/京都大学 客員教授)、富田 克彦(神戸大学 産官学連携本部 特命教授)、藤井 信忠(神戸大学 DX・情報統括本部情報基盤センター 教授)

概要	国際標準に承認された脳の健康指標 BHQ を用いた研究を基盤に、脳を健康にするための運動や食事、睡眠等の7カテゴリー/18行動指針からなる「BHQ Actions」を策定。様々な企業が採用することで、科学的根拠に基づいた研究開発や商品企画を高速かつ低コストで実現可能。
目的	企業による多様な商品の提供を通じて人々の脳の健康を支えることで、メンタルケアと認知症予防をサポートし、医療費介護費の削減を目指す。その中で異業種のオープンイノベーションを推進し、日本発世界での脳健康産業の創出につながるビジネスエコシステム形成を目指す。
内容	「BHQ Actions」を用いて企業や自治体から提供されるフィールドを活用し、異分野の研究者が様々な研究を進め、成果を広く共有している。研究成果を参考に各企業の強みを活かした多様な製品群を様々なシーンや場所で利用できる相互補完的かつ共進化的な活動を推進。
効果	・10の研究機関、33の民間企業及び、10の自治体、30の病院との連携を実現。 ・3年後に30の研究機関、100の民間企業、5年後に50の自治体、150の病院を目標。



ココがポイント!

メンタルケア、認知症という社会課題に対して連携の具体性が高く、まさにオープンイノベーションプラットフォームとなるべく指針の定義とハブ機能を構築している。BHQに基づき行動指針をまとめ様々なステークホルダーが連携している点も評価。今後はオープンイノベーションの連携を通じて、科学的根拠や事業性確立などの補完が期待される。

図. 第6回日本オープンイノベーション大賞 受賞取組・プロジェクトの概要資料より当取組について

今後もオープンイノベーションの連携を通じて、科学的根拠や事業性確立などの補完を進め、メンタルケア、認知症という社会課題の解決を目指して参ります。

受賞概要

受賞名

第6回日本オープンイノベーション大賞

受賞案件

日本発の脳健康産業の創出に向けた「BHQ Actions～楽しく無理なく脳を健康にするための18の行動指針～」の社会実装

受賞者

山川 義徳

((一社)ブレインインパクト 理事長/京都大学 特命教授/神戸大学 客員教授/東京工業大学 特定教授)

川森 雅仁 (BHQ(株) 代表取締役社長/慶応大学 特任教授)

岡本 摩耶 (BHQ(株) 取締役副社長/京都大学 客員教授)

富田 克彦 (神戸大学 産官学連携本部 特命教授)

藤井 信忠 (神戸大学 DX・情報統括本部情報基盤センター 教授)

取り組み内容

概要	国際標準に承認された脳の健康指標 BHQ を用いた研究を基盤に、脳を健康にするための 7 カテゴリー/18 行動指針からなる「BHQ Actions」を策定。様々な民間企業が採用することで、科学的根拠に基づいた研究開発や商品企画を高速かつ低コストで実現することが可能に。
目的	企業による多様な商品の提供を通じて人々の脳の健康を支えることでメンタルケアと認知症予防をサポートし、医療費介護費の削減を目指す。その中で異業種企業とのオープンイノベーションを推進し、日本発の脳健康産業の創出につながるビジネスエコシステム形成を目指す。
内容	「BHQ Actions」を用いて民間企業や自治体から提供されるフィールドを活用し、異分野の研究者が様々な研究を進め、成果を広く共有している。研究成果を参考に各企業の強みを活かした多様な製品群を様々なシーンや場所で利用できる相互補完的かつ共進化的な活動を推進。
効果	・10 の研究機関、33 の民間企業及び、10 の自治体、30 の病院との連携を実現。 ・3 年後に 30 の研究機関、100 の民間企業、5 年後に 50 の自治体、150 の病院を目標。

■お問い合わせ先

BHQ プロジェクト事務局

E-Mail : bhq_contact@bi-lab.org

<ご参考>

日本オープンイノベーション大賞ウェブサイト
(<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/prize/>)

BHQ Actions について (<https://www.bi-lab.org/bhq-actions>)

脳科学の専門家である BHQ プロジェクトメンバーが中心となり、脳の健康維持や向上に有効であることが学術的に示されている生活習慣や心理特性から、「楽しく無理なく脳を健康にするための 18 の行動指針」を 18 個抽出したものです。

BHQ Actions 作成の目的

超高齢社会のわが国では、認知症など、脳の健康を脅かす病気が社会問題化しています。BHQ Actions は、広く一般の人々に、科学的に脳の健康に良いとされる習慣を知ってもらうことで、自ら脳に良い行動をとれるようにするために作成しました。

BHQ Actions の広がり

BHQ Actions は、「ブレイン」ヘルスケアに関心がある団体、企業にも広く利用してもらうことを想定しています。私たちが、科学論文をもとに策定した「楽しく無理なく脳を健康にするための 18 の行動指針」はあくまで指針にすぎません。BHQ Actions に基づいて、団体・企業・個人それぞれの立場から、脳こいいモノ（製品やサービス）・脳こいいコト（生活習慣や体験）を考えるきっかけとしてもらいたいと思います。

表.BQH Actions 18 行動指針

No.	カテゴリ	行動指針
1	健康管理	 自分の脳を知ろう
2		 自分の体を知ろう
3	運動	 エクササイズを習慣にしよう
4		 スポーツを楽しもう
5	社会・生活	 人と積極的に関わろう
6		 多様性を受け入れよう
7	食事	 野菜を食べよう
8		 おやつを工夫しよう
9		 バランスの良い食事を食べよう
10	睡眠・休息	 質の良い睡眠をとろう
11		 仕事がある日も休息をとろう
12		 疲労とストレスを貯めないようにしよう
13	学習	 学習を続けよう
14		 わくわくする体験をしよう
15		 アートや音楽に挑戦しよう
16	環境	 住環境を整えよう
17		 外に出て自然に触れよう
18		 美しいやかわいいを周りにおこう